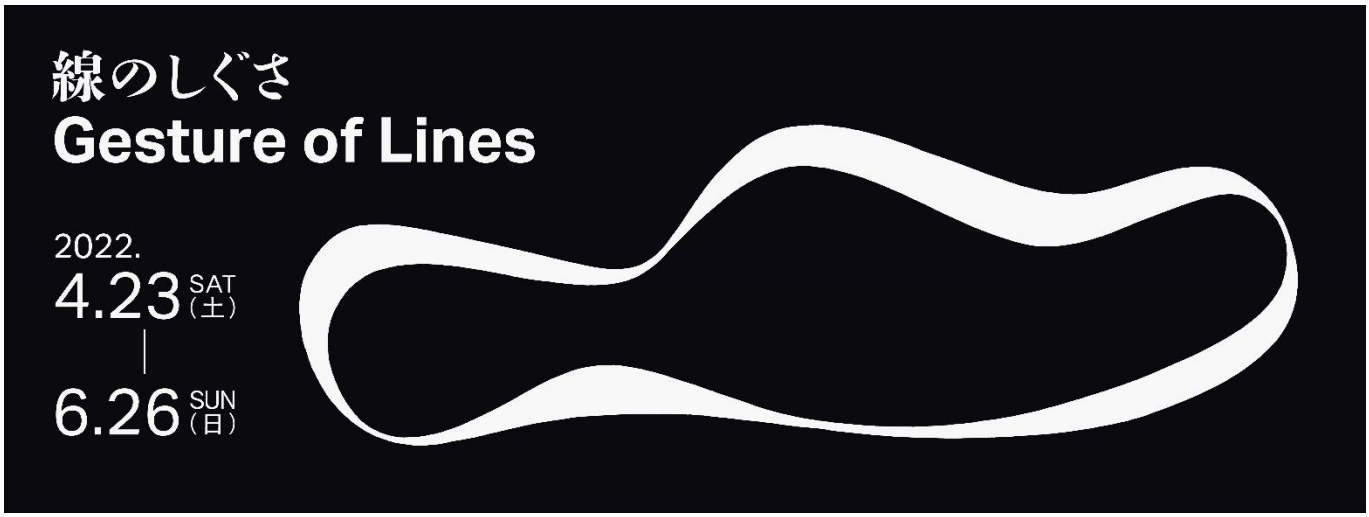
東京都渋谷公園通りギャラリー
Tokyo Shibuya Koen-dori Gallery

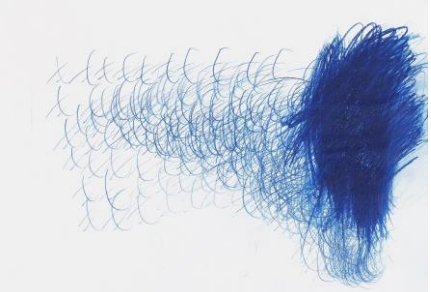
PRESS RELEASE

令和 4 年 2 月 25 日
公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
東京都渋谷公園通りギャラリー

MoMA、ポンピドゥー・センター等の収蔵作家を含む 10 名の「線」をなぞる

展覧会「線のしぐさ」開催のお知らせ





（左）齋藤裕一《無題（ドラえもん）》2005 年　個人蔵　提供：小出由紀子事務所　撮影：平田かい
（中央）ダン・ミラー《無題》2014 年　個人蔵　提供：小出由紀子事務所　© Creative Growth Art Center.
（右）ジュディス・スコット《無題》1993 年　オークランド、クリエイティブ・グロウス・アート・センター　© Creative Growth Art Center.

東京都渋谷公園通りギャラリーは、2022 年春の企画展として、展覧会「線のしぐさ」を開催いたします。本展は、近年、日本においてまとまったかたちで紹介される機会の少なかったアメリカのアール・ブリュットの作家と、日本の作家とを同じ空間で展観いたします。ローザンヌのアール・ブリュット・コレクションだけでなく、ニューヨーク近代美術館やパリのポンピドゥー・センターなどに作品が収蔵される作家を含む 10 名が、「線」をテーマに一堂に会します。

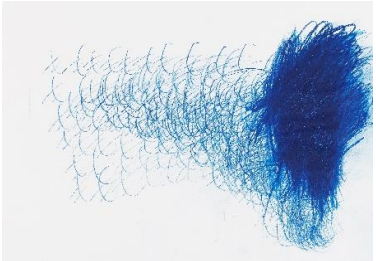
一本の線は、あるときはひとつの範囲を分け、またあるときは離れたものどうしをつなげます。相反する機能をもつ線は、空間の中で自らをさまざまに変化させ、かたちをつくり、ときには、かたちにならない何ものかを表します。「アール・ブリュット」の作品における線は、しばしば意図や計画とはかけ離れた、即興や偶然の結果とみなされます。反面、それは、作家の抑えがたい衝動や愛着、それに応じた身体の心地よい動きと離れがたく強く結びついています。そのため、作家のからだと心のしぐさは線にのりうつり、線はしぐさを生むのです。本展では、10人の作家がつむぎ出す線のしぐさをなぞります。

展覧会概要

1974 年の設立以来、アメリカの障害のある人々の創作活動を牽引し、多くのすぐれた作家を輩出してきたクリエイティブ・グロウス・アート・センター（Creative Growth Art Center、以下 CGAC）の作家を、日本の作家とともにご紹介します。

展 覧 会 名：線のしぐさ
会　　期：2022 年 4 月 23 日（土）－　6 月 26 日（日）
開 館 時 間：11：00－19：00
休　館　日：月曜日
会　　場：東京都渋谷公園通りギャラリー　展示室１、２
入　場　料：無　料
出 展 作 家：齋藤 裕一、坂上 チユキ、西村 一成、東恩納 侑、松浦 繁、スーザン・ジャノウ、
　　ドワイト・マッキントッシュ、ダン・ミラー、トニー・ペデモンテ、ジュディス・スコット
主　　催：（公財）東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 東京都渋谷公園通りギャラリー
特 別 協 力：クリエイティブ・グロウス・アート・センター
後　　援：アメリカ大使館
展覧会ウェブサイト：https://inclusion-art.jp/archive/exhibition/2022/20220423-133.html
＊開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

出展作家プロフィール


齋藤裕一《無題（ドラえもん）》2005 年　個人蔵
提供：小出由紀子事務所　撮影：平田かい

齋藤 裕一（SAITO Yuichi）　1983-

埼玉県生まれ。2002年より川口市の「工房集」で活動。文字を書くことがきっかけとなり、好きなテレビ番組名などを連ねるドローイングへと展開。特定の文字が抽出されることが多く、それらの線が絶えず余白とせめぎ合い緊張関係を保ちながら、濃淡のある層と塊をなしていく。近年、作品がパリのポンピドゥー・センターに収蔵された。

坂上チユキ《父は鳥、母は魚（故郷はパプアニューギニア）》　1980 年代　MEM 蔵
©SAKAGAMI Chiyuki.　提供：MEM

坂上 チユキ（SAKAGAMI Chiyuki）　1961-2017

兵庫県生まれ。洋の東西を問わず神話や物語などに着想を得て、太古から自然をいきる生物、特に自ら愛でた鳥類をたびたび表す。息づかいを映し出すかのように微細な線を引きつなげて、青や水色を基調とするドローイングを多く手がけた。作品はローザンヌのアール・ブリュット・コレクション、東京国立近代美術館などに収蔵。

西村一成《no title no. 1 (20191217)》
2019 年　作家蔵　提供：ギャルリー宮脇

西村 一成（NISHIMURA Issei）　1978-

愛知県生まれ。気迫に満ちた絵画のほかに、疾走感のある線を絡ませ、大胆な角度で対象を表したドローイングも制作。愛する音楽に触発され、また、動物的直感で世界の情況に感応し、あたかも手から繰り出すか、掘り起こすかのようにして、瞬時にかたちを捉えていく。作品はローザンヌのアール・ブリュット・コレクション、京都市美術館に収蔵。

東恩納 侑《無題》2005 年頃　作家蔵
提供：アートキャンプ 2001 実行委員会

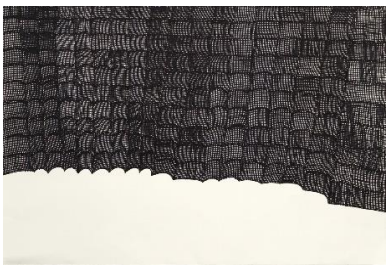
東恩納 侑（HIGASHIONNA Tasuku）　1987-

沖縄県生まれ。粘土に親しんだ後、機関車やロボットなどをモチーフに、針金のゆがみを利用しながら3次元的にかたちを捉える作品を制作。ボタンや生活の中にある素材をモチーフの一部に見立て、素描のように題材を映し出す。「アートキャンプ2006 素朴の大砲」展（浦添市美術館、沖縄、2006年）のほか、県内を中心に発表を重ねる。

松浦 繁《守り神》2008 年　作家蔵　撮影：三浦晴子
提供：障害者芸術活動支援センター@宮城（SOUP）

松浦 繁（MATSUURA Shigeru）　1971-

宮城県生まれ。1994年から仙台市の「アトリエ創」で木彫を本格的に始める。仕上げに指や手の平で塗り込む絵具のやわらかな色彩と、ノコギリなどを用いて残す鋭い線との対比が、木肌に豊かな表情を生む。主な展示に「木々の生命」（もうひとつの美術館、栃木、2017年）などがある。平成29年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。



スーザン・ジャノウ《無題》2017 年　オークランド、クリエイティブ・グロウス・アート・センター
© Creative Growth Art Center.

スーザン・ジャノウ（Susan JANOW）　1980-

カリフォルニア州サンフランシスコ生まれ。2003年よりCGACに参加。グリッドを描き、細い線のクロスハッチングで念入りに埋めるドローイングを多く制作。近年は、格子のサイズや配置、枠内の色づけに新たな変化をみせる。また、映像作品でも注目を集めている。作品は、ニューヨークのブルックリン美術館、パリのポンピドゥー・センターなどに収蔵。

ドワイト・マッキントッシュ《無題》1995 年
オークランド、クリエイティブ・グロウス・アート・センター　© Creative Growth Art Center.

ドワイト・マッキントッシュ（Dwight MACKINTOSH）　1906-1999

カリフォルニア州ヘイワード生まれ。70歳を超えた1979年からCGACに参加。人物や乗り物など自身の経験に由来するモチーフを、X線透過画像のように線で捉える。手の動きのリズムを映すかのごとく、線は密度の濃淡を伴いながら画面に増殖する。作品は、ローザンヌのアール・ブリュット・コレクション、パリのポンピドゥー・センターなどに収蔵。

ダン・ミラー《無題》2014 年　個人蔵
提供：小出由紀子事務所　© Creative Growth Art Center.

ダン・ミラー（Dan MILLER）　1961-

カリフォルニア州カストロバレー生まれ。1992年よりCGACに参加。関心を持つものに伴うかたちやアルファベット、数字を重ねる。ペンの細い線、絵具のダイナミックな線が層をなし、時折、単語を浮かび上がらせつつも、意味から解き放たれた線の集合体を生んでいる。作品は、ニューヨーク近代美術館、パリのポンピドゥー・センターなどに収蔵。

トニー・ペデモンテ《無題》2018 年　オークランド、
クリエイティブ・グロウス・アート・センター
© Creative Growth Art Center.

トニー・ペデモンテ（Tony PEDEMONTE）　1954-

カリフォルニア州オークランド生まれ。2009年よりCGACに参加。身のまわりにあるものを集めて用いる方法は、ドローイングを制作していた頃から始まる。木材や廃品などを組み合わせた骨組みを糸や毛糸で執拗に包み込み、細い糸のレイヤーによる滑らかな質感や、予期しない幾何学的なフォルムを生み出す。2020ウィン・ニューハウス賞を受賞。

ジュディス・スコット《無題》1993 年　オークランド、
クリエイティブ・グロウス・アート・センター
© Creative Growth Art Center.

ジュディス・スコット（Judith SCOTT）　1943-2005

オハイオ州コロンバス生まれ。1987年よりCGACに参加。糸や毛糸、端切れなどを丹念に巻きつけた「繭」のような立体作品を制作。中には、アトリエで自ら見つけたものを収める。素材と巻きの強さが変化するにつれ、新たなテクスチャーとより自由な輪郭線を得ていく。作品は、ニューヨーク近代美術館、パリのポンピドゥー・センターなどに収蔵。

関連イベント

ゲストを招いたトークイベントやギャラリートークを予定しております。詳細は当ギャラリーWeb サイト（https://inclusion-art.jp）にて随時お知らせいたします。

■　東京都渋谷公園通りギャラリーとは

2020 年 2 月にグランドオープンした当ギャラリーは、アール・ブリュット等の振興拠点として、アートを通して、ダイバーシティの理解促進や包容力のある共生社会の実現に寄与するため、アール・ブリュット等をはじめとするさまざまな作品の展示や、新設した交流スペースを活用した対話的で創造的な交流プログラムを展開しております。

お問合せ

東京都渋谷公園通りギャラリー　広報担当　（（公財）東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 ）

〒150-0041　東京都渋谷区神南 1-19-8　Tel：03-5422-3151　　E-mail：inclusion@mot-art.jp

東京都渋谷公園通りギャラリー
Tokyo Shibuya Koen-dori Gallery

[取材・画像使用申込書]

東京都渋谷公園通りギャラリー　広報担当　行

Fax：03-3464-5241　E-mail：inclusion@mot-art.jp

取材および広報用画像について

本展覧会の取材を希望される場合は、本紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはEメールにてお申し込みください。また、本展覧会の広報用素材として10点の画像をご用意しております。希望されます場合は、希望画像をご記入の上、お申し込みください。

☐ 取材希望　　☐ 画像使用希望

取材希望日時：

使用希望画像：

貴社名：

貴媒体名：

種別：
○印をお付けください
ＴＶ　ラジオ　新聞　雑誌　フリーペーパー　ネット媒体　携帯媒体　その他

発行・放送予定日：

ご担当者名：

Ｅメールアドレス：

ご住所：（〒　　）

お電話番号：

ＦＡＸ：

その他：

なお、取材および写真使用に際しましては、以下のことをお願いしております。

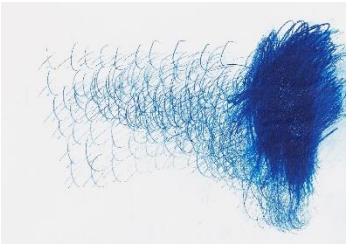
① キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ず表記してください。

② 作品画像のトリミング、文字載せはご遠慮ください。

③ 本展を紹介いただく場合には、恐れ入りますが掲載誌（紙）、DVD、CD等をご提供ください。

広報用画像一覧 （出展作品とは異なる場合があります）

①

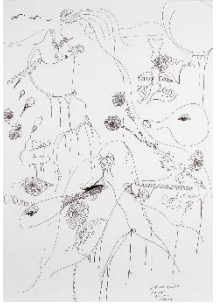


齋藤裕一《無題（ドラえもん）》2005 年
個人蔵　提供：小出由紀子事務所
撮影：平田かい

②

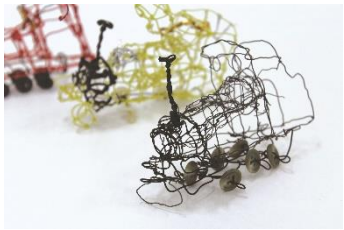
坂上チユキ《父は鳥、母は魚（故郷はパプアニューギニア）》1980 年代　MEM 蔵
©SAKAGAMI Chiyuki.　提供：MEM

③



西村一成《no title no. 1 (20191217)》
2019 年　作家蔵
提供：ギャルリー宮脇

④

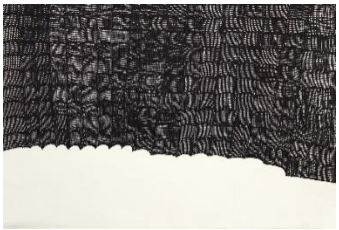


東恩納 侑《無題》2005 年頃　作家蔵
提供：アートキャンプ 2001 実行委員会

⑤

松浦 繁《守り神》2008 年　作家蔵
撮影：三浦晴子
提供：障害者芸術活動支援センター@宮城（SOUP）

⑥



スーザン・ジャノウ《無題》2017 年
オークランド、クリエイティブ・グロウス・アート・センター
© Creative Growth Art Center.

⑦

ドワイト・マッキントッシュ《無題》
1995 年　オークランド、クリエイティブ・グロウス・アート・センター
© Creative Growth Art Center.

⑧

ダン・ミラー《無題》2014 年　個人蔵
提供：小出由紀子事務所
© Creative Growth Art Center.

⑨

トニー・ペデモンテ《無題》2018 年
オークランド、クリエイティブ・グロウス・アート・センター
© Creative Growth Art Center.

⑩

ジュディス・スコット《無題》1993 年
オークランド、クリエイティブ・グロウス・アート・センター
© Creative Growth Art Center.

お問合せ／お申込み

東京都渋谷公園通りギャラリー　広報担当

（（公財）東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 ）

Tel：03-5422-3151

Fax：03-3464-5241

E-mail：inclusion@mot-art.jp

URL：https://inclusion-art.jp